

課題名：市中肺炎におけるラスクフロキサシン静注の
有効性と安全性の臨床的検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、市中肺炎の診断にて入院された患者さんについて、初期治療としてニューキノロン系抗菌薬であるラスクフロキサシン静注の有効性と安全性を既存の治療薬であるレボフロキサシン静注と比較をして検討しています。本研究では、市中肺炎初期治療におけるラスクフロキサシン静注の有効性と安全性を評価することにより、今後のよりよい肺炎診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2010 年 10 月から、2024 年 12 月までの間に、市中肺炎であると診断され呼吸器内科に入院され前向きレジストリー研究に登録された 15 歳以上の方。

上記の患者さんのうち、初期治療としてラスクフロキサシン静注単剤あるいはレボフロキサシン静注単剤で治療を開始された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

- ・年齢、性別、喫煙歴、基礎疾患
- ・バイタルサイン(意識レベル、体温、脈拍、血圧、呼吸数、酸素飽和度)
- ・血液検査所見(ヘモグロビン、白血球数、白血球分画、血小板数、総タンパク、アルブミン、総ビリルビン、AST、ALT、LDH、BUN、Cr、Na、CRP)
- ・起炎菌
- ・肺炎重症度(A-DROP、CURB-65、PSI)
- ・ICU 入室、人工呼吸器使用、カテコラミン使用、入院期間
- ・入院前の治療有無と治療薬、入院後の治療内容
- ・30 日死亡(入院後)、院内死亡

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 10 月 15 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録からの情報を利用します。

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は

利用しません。

- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

呼吸器内科 研究責任者 伊藤 明広

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明